

クリスマス

赤谷慶子

海外、特にキリスト教徒の多き欧米には聖誕祭はキリストの降誕にて、それを盛大に祝ひ、休暇も長くとるが通例なり。日本には正月休みに重点ありて、長き休暇に入る。日の本にも生誕祭を祝ふ習ひは根付きたれど、宗教とは絶えて無縁なる祭りとなりにけり。

我はカトリック教徒なれば、廿四日の夜半に教會へ行けり。巴里在住のほどは日ごろ通へる教會のミサに参列せざれど、ある年、母にノートルダム寺院へ連れて行かれき。等身大のキリスト降誕場面教會前にあり、子供ながら感嘆せり。最近夜半のミサへは行くことなし。

その昔、聖誕祭といへば會社歸りのをとこども飲みて酔ひ、子供らは母親と家にて祝ふといふが多けれど最近ハ父親も家に歸り家族とともに食すといふが趨勢になりき。海外にてハ家族全員にて祝ふが通例にて、日の本もキリスト教のお祝ひに準ずる形になれり。

クリスマスカードは海外からのみ届けど、日本には年賀狀あり。加齡とともに、このならひが「我は生きたり」といふ「知らせ」のごときものになりきたり。

この季節世界中祝ひに沸き立つ中、戦や紛争勃發しをり、それらに巻き込まれたる多くの人々ありと胸痛む。新しき年平和をもたらず事を頼みて祈るばかりなり。

(令和六年十二月二十九日受附)